

2017  
0106  
No.  
30



# すずしん

新発想で  
つくろう。  
豊かな  
人口減少社会

## 今こそ静岡のフューチャーデザインを！

### 将来世代にとって迷惑なことを積み重ねていないか

「Wood Job!」という平成26年に公開された邦画をご存じでしょうか。静岡県出身の長澤まさみさんがヒロインとして出演していることもあり大変お勧めの映画です。大学入試に失敗した主人公が、たまたま商店街で見かけた募集パンフレットの表紙の女性（長澤まさみさん）に惹かれて1年間三重県の山奥の村で林業研修を受け、都会では出来ない様々な経験を通じて成長するという青春ドラマですが、その中に次のようなシーンがあります。

競りで樹齢105年の木が1本80万円で売れたことを知り、山の木を全部切り出したら億万長者になれると主人公は言います。それを聞いた親方達は「**自分が生きとるうちのことしか考えんのか。先祖が植えたもん全部売ったら、次の世代、その次の世代はどうするんや。仕事の結果が出るのはおれらが死んだ後や**」と主人公を諭す、というものです。

今後少なくとも数十年間は人口減少・超高齢化が進行し、かつての高度成長期のような経済発展が見込めない時代にいる私達には、何世代もの先の子孫のことを考えて山や森を守ってきた、林業家のような思想の実践が求められていると考えます。

例えば、既に巨額な残高（通常債と臨時財政対策債で計2兆7千億円以上）があるにもかかわらず、私達は今もなお県債を発行してインフラ整備等の事業を進めています。県債、つまり借金は全て悪いという訳ではありません。インフラは将来世代にとっても有用ですから、ある程度の負担をお願いするのはむしろ当然と言えるかもしれません。しかし、現在、維持管理や新たな整備が行なわれているインフラが、例えば、県人口が2百万人台に突入した時の将来世代にとって、維持管理と県債返済のための



1月のすずしんラジオでも「フューチャーデザイン」についてお話します。本年もよろしくお願い致します！

多額の負担をしてまでも必要なものなのかと言え、そうした視点での議論は、現時点では不十分と言わざるを得ないでしょう。

言い換えれば、**現在の課題の克服のために進めているインフラ整備や事業は、将来世代にとっては、財政負担に見合うほどの必要性がない、むしろ迷惑なものになる可能性が出てきている**のです。そのため、将来世代の視点にも立ちながら、政策を考え実行することが今まさに必要なのです。

それには、**将来を起点に、今後起こり得る問題を予測し、それらを克服・回避するために、今から何をすべきか議論する「バックカスティング」という考え方の実践**、つまり、現状の問題を解決するための対策を考え実行するのではなく、**将来あるべき社会を実現するために今から何をすべきか、という観点から「フューチャーデザイン」としての、数十年先を見通した長期ビジョンを作ることが不可決**であるはずなのです。

# 将来世代にとっても 住みやすい社会実現のための フューチャーデザインを

例えば、上下水道の場合、特に高度成長時代に数多く整備され老朽化対策が必要な上下水道管の更新に加え、これから人口が益々減少し水需要が減る以上、どの自治体でもほぼ例外なく上下水道料金を値上げせざるを得ません。ただ、現在使用している私達にしてみれば、料金は安いに越したことはありません。私達の利益だけを考えれば、料金の値上げは出来るだけ先延ばした方が良くすることになります。しかし、値上げが遅くなればなるほど借金を重ねたり管路の更新が遅れたりすることになり、将来世代の上下水道料金はその分更に高くせざるを得なくなります。そうなれば「何故もっと前から値上げをしなかったのか」と将来世代は思うことでしょう。フューチャーデザインとはそうした将来世代の利益についても考えることなのです。



「オポッサムプロジェクト」の責任者である千葉大学の倉阪秀史教授と共に（平成28年11月11日）

一昨年に県が策定した長期人口ビジョンによれば、「合計特殊出生率を2020年に2.07・社会移動を2020年に均衡」という極めて高い目標を達成したとしても、2060年頃には県人口は2

# 若者県民会議に 専門家を派遣へ

政策企画部長答弁

森貴志政策企画部長は、人口減少社会の施策に若者の意見を反映させるための「次代を担う若者たちによる県民会議」のグループ討論の場に専門家を派遣するなどとして、会議の

運営の充実を図る考えを示した。鈴木氏への答弁。  
1月に設置した同県民会議には若い世代の委員が参加して意見交換をしている。2017年度に県の将来ビジョンに対する提言をまとめる方針。

私の質問翌日の静岡新聞（平成28年12月13日）

百万人台に突入します。つまり人口はこれから約2割も減るのですから、単純に考えれば、インフラも少なくとも2割は減らさなければ維持管理は困難になります。言うのは簡単ですが、例えば、道路や水道を人口減少に合わせて縮小・廃止するのは容易ではありません。だからこそ、将来世代の視点に立ってフューチャーデザインとして包括的な長期ビジョンを作り、今から備えることが必要なのです。

そこで昨年の12月議会では、一昨年に私の提言を受けて県が設置した「次代を担う若者たちによる県民会議（若者会議）」の役割として、来年度策定する次期総合計画への提言を目指しながら、前述のフューチャーデザインとしての長期ビジョンを策定すべきと主張しました。具体的には、既に岩手県矢巾町がフューチャーデザインとしての「2060年矢巾ビジョン」の策定を進めており大いに参考にすべき、千葉大学では自治体等と連携して2040年の産業構造、人的資本、住宅、森林、財政等の状況を具体的にシミュレーションし、今後の課題を議論するという「オポッサム」プロジェクトを進めており同様の取り組みを行うべき、と提案しました。

また、日頃から議論を深めるために、大学教授等の専門家にも加わって頂きながら委員をワーキンググループに分け、時には視察や合宿、ワークショップを開催する等の運営改善も提案し、県もその方向で体制を強化すると答弁しました。今後の若者会議の動きに是非ともご注目下さい！

お読み下さりありがとうございます。『すずしん』に関するお問い合わせは…

静岡県議会議員すずきさとる事務所 〒422-8041 静岡市駿河区中田1-11-19  
電話 054-281-3715 FAX 054-281-3716 E-mail: mail@suzukisatoru.net  
開所時間: 月曜日～金曜日(休祝日を除く) 9時～15時 ※南幹線沿いにあります!



地元根差した事務所を目指しています。県政や県議会について話を聞きたい、どこに相談していいのわからないという方、遠慮なくご連絡下さい! すずきさとる

すずきさとるの  
すずしんラジオ

毎月第2・4金曜日  
午後6時30分より  
FM・Hi!で放送中

76.9  
FM・Hi!